

進捗状況の概要 【1ページ以内】

構想の枠組みを凌駕する成果を双方向ツインクル活動が後押しして達成

ASEAN5か国、12大学および30校の小・中・高校を含めた文理融合によるグローバル人材養成推進ツインクルコンソーシアムを平成24年度に発足し、ツインクルプログラム実施のための体制を構築した。これにより当初の計画を大幅に上回る交流数を実現するとともに、ASEAN学生による日本での科学教育活動を組み込むことで双方向ツインクルへとプログラム内容を飛躍的に発展した。

ツインクルプログラムによる平成25年度までの達成状況

①派遣・受入れ交流総数=344名（学生交流 199名、千葉大学教職員 68名、ASEAN教職員77名）

②ASEANの小・中・高校での実施授業総数=126講義、受講したASEAN児童・生徒のべ人数 約5,000人

学生派遣先	連携大学	連携学校 (小中高)	平成24年度		平成25年度		
			授業実施 中・高等学校	派遣 人数	授業実施 小・中・高等学校	派遣 人数	受入 人数
インドネシア	インドネシア大学	5校	2校、計 8講義	8名	3校、計20講義	15名	13名
	ガジャマダ大学	2校	2校、計 8講義	8名	2校、計 8講義	14名	10名
	ボゴール農業大学	3校	2校、計 8講義	8名	2校、計 8講義	6名	8名
	バンドン工科大学	6校	4校、計 8講義	4名	2校、計 10講義	8名	12名
	ウダヤナ大学	3校	2校、計12講義	9名	2校、計 20講義	21名	5名
カンボジア	王立プノンベン大学	2校	1校、計 4講義	2名	1校、計4講義	2名	—
シンガポール	南洋理工大	1校	—	—	1校、計4講義	4名	—
タイ	マヒドン大学	1校	—	—	政情不安により実施せず	—	—
	カセサート大学	1校	—	—	政情不安により実施せず	—	—
	チュラロンコン大学	2校	—	—	政情不安により実施せず	—	10名
	キングモンクット工科大学	2校	—	—	政情不安により実施せず	—	14名
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	2校	—	—	2校、計4講義	6名	11名
合計		30校	13校 48講義	39名	15校 78講義	76名	84名

③グローバルジャパンカリキュラム(GJC)開設と授業の実質化

アクティブラーニングを主体とした事前準備、現地活動、事後指導のための授業科目を開設し、シラバスに公開した。具体的には教材・授業開発、英語による授業・交流実施のためのコミュニケーション力強化、ASEANでの授業実施、帰国後の体験・学習報告である。大学院、学部それぞれ8科目を開講し、最大14単位を取得可能である。これらの単位は卒業・修了要件として学生手帳に明記した。

④双方向ツインクルプログラムでの単位取得を伴う派遣・受入れ交流の“100%”達成

ASEAN学生に対しては、千葉大学における科学教育・研究交流活動をツインクル科目（1科目2単位）として開講した。これをもとにASEAN学生のツインクル活動を評価し、単位と修了証を授与した。

⑤開発した教材・授業のアーカイブ化とプログラム自立化へ向けた大学院マイナーコース設置への基盤づくり

科学教材・授業を系統的に蓄積し、本プログラムの全学共通グローバル教育コースとしての基盤とした。

【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
40名	39名	5名	0名	80名	76名	41名	84名